

平成26年度 糸魚川市特別活動部 活動報告

部長 谷口 一之

1 研究主題

「望ましい集団活動を通して、自主的・実践的な態度をどのように育てたらよいか」

2 研究の概要

糸魚川市教育研究会の特別活動部員（小・中合同）が、上記研究主題により、各学校で研究実践に取り組む。11月の市教育研究会の一斉研修日の部会で、各自の実践を持ち寄り、研究協議を行い、実践を交流し、深める。また、講師を招いて講話を聴くことにより、自らの実践を振り返り、今後に生かせる研修を積む。

3 研究の実際

5月、研究主題をもとに、各自の今年度の研修についてのアンケートをとり、研究の進め方をまとめた。その後、各学校で、実践に取り組んだ。11月11日の市教育研究会の一斉研修日に特別活動部会を開催し、研修を深めた。

「特別活動部会の研修の概要」

各自の研究主題をうけた実践の報告、発表、協議

・児童会活動における主体的に活動する子の育成を目指して、縦割り班活動の活性化、委員会活動の精選化、代表委員会の充実

・よりよい学校生活を送るため、生徒の自主的・自発的な活動の推進（リーダー育成）

・集団の課題を共に解決していこうとする姿勢・態度の育成（話し合い活動の活性化）

・生徒が互いの存在を認め合うことを通して、個々の生徒がもつ潜在的な能力や適性が発揮できるように支援（振り返り活動の充実）

・他校の生徒会との交流、市内生徒会交換会、青少年赤十字交流会

・児童会委員会活動の活発化、縦割り班活動の充実、遠足、清掃活動、あいさつ運動

・学級に株式会社の活動を取り入れた実践、活動により配当、ボーナス、倒産もあり

・生徒会学年委員の活動の充実のために、意欲付け、時間の確保、目標設定

・全校参加型全校集会、生徒総会、いじめ見逃しゼロ集会の工夫、改善

講話 恩田正身 様（能生児童館長、元糸魚川小学校長）

「特別活動・児童文化・地域の活動に関わって」

・特別活動と子ども会活動との共通点、異年齢・集団活動・社会性・人間関係づくり

・東京での教員時代、児童会担当、PTA 地区担当、団地の子どものリーダーズクラブ立ち上げ、以降、新潟県に戻ってからも、勤務校で地区子ども会、育成協議会等の結成に参画

・クラブ活動に地域の指導者を招く、現在も継続している学校が多い

・退職前から、地域の役員を務め、子どもを含めたふれあい活動等の実施

・退職後、町内会長に、自主防災組織の立ち上げ、地区民同士の心の絆を深める地域（まち）づくり、地域あいさつ運動（保・小・中・高連携）の推進

・能生児童館長として、0歳から18歳までの子育て、保護者育て

4 成果と課題

各自の実践を発表、協議し、研修を深めることができた。また、講師の恩田様からは、特別活動、子ども会、地域づくり等の話から、今求められている教育に果たすべき特別活動の重要性が改めて確認できた。小・中合同の部会であるため、小・中の連携、つながりの点で、意義のある交流ができてきている。他の部との兼務もあり、少人数の部会である。学級担任が少なく、授業研究の実施についても課題がある。会員の減少等で部の所属人数を増やすことは簡単ではないが、研修の進め方と合わせて検討していきたい。